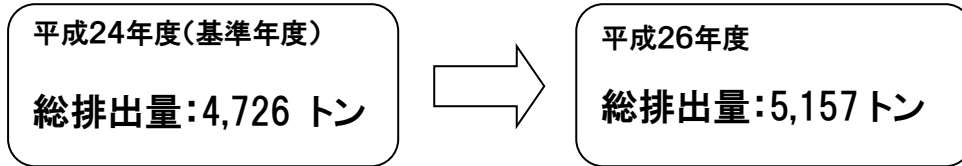


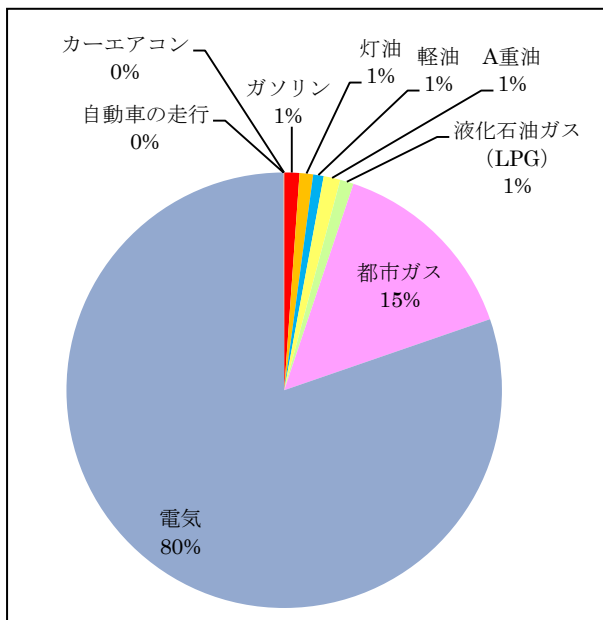
平成26年度温室効果ガス排出量まとめ

1. 温室効果ガス排出量について

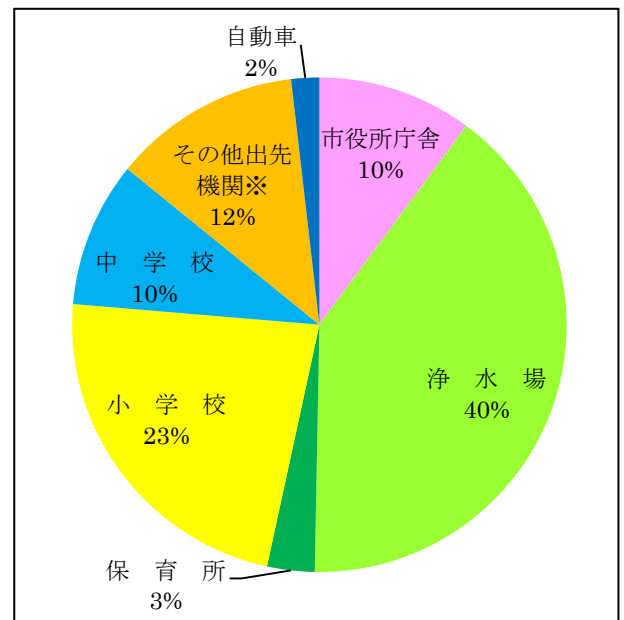


※平成24年度比 9.1%増

発生源別二酸化炭素排出割合



施設別二酸化炭素排出割合



2. 森林整備によるCO₂吸収量

🌲 森林整備面積：10.9ha

🌲 CO₂吸収量：81.3 t

H21 H22 H23 H24 H25 H26
 $(45.7t + 59.2t + 157.0t + 108.2t + 65.7t + 52.0t) \div 6 \text{年} = 81.3t$

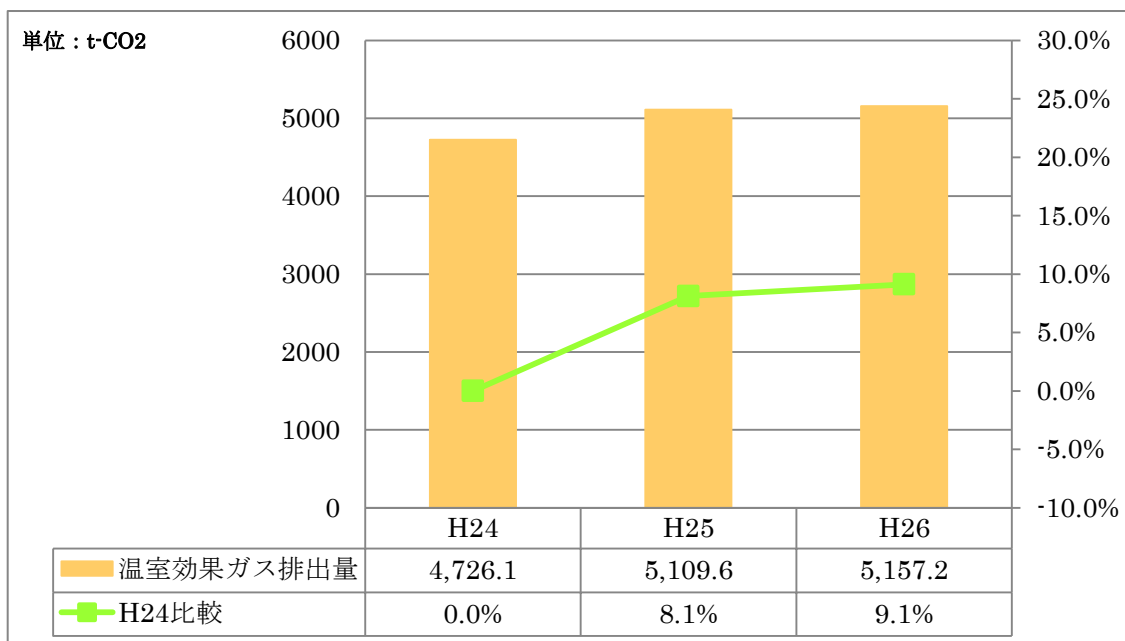
H24年度比
11.7%増加

全体(総排出量:5,157t-CO₂吸収量:81t) = 5,076t

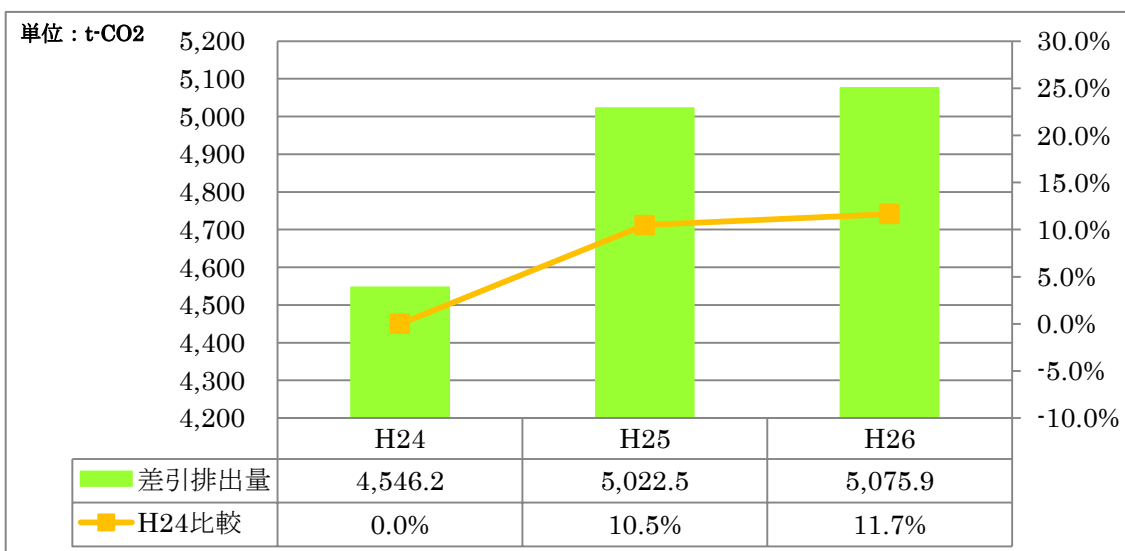


《推移》

① 【温室効果ガス排出量推移】



② 【温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移】



①のグラフは、基準年である平成24年度から計画の対象年度である平成26年度までの推移を比較したグラフです。②のグラフは、①の排出量から森林吸収量を差し引いたグラフです。

平成26年度は基準年度と比べて9.1%の増加、森林吸収量を含めても11.7%の増加となりました。

温室効果ガス排出量が増加した背景としては、神足小学校の複合化工事に伴い、旧校舎と仮校舎を併用したことによる空調機器の使用量の増加が挙げられます。

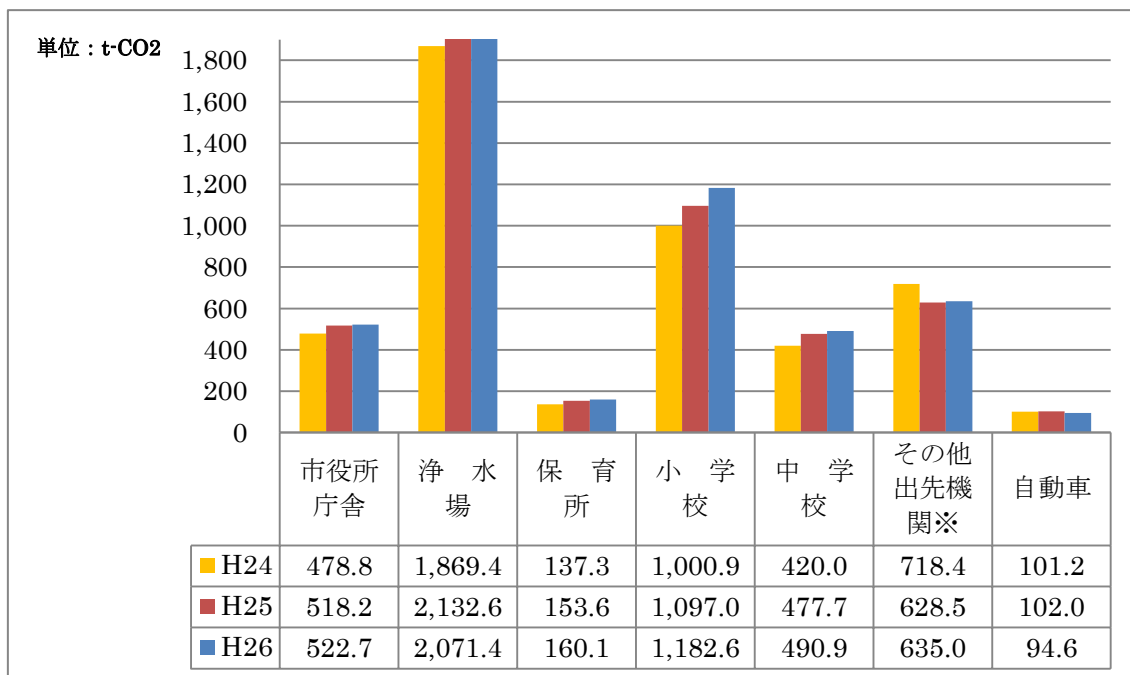
一方、本市の電気使用量のうち約5割を占める水道関連施設においては、給水区域の見直しによる効率化や第二浄水場における井戸の休止などの影響により、昨年度に比べ、電気使用量が10.6%削減されました。

また、温室効果ガスの発生源のうち全体の約8割を占める電気使用量については、前年度比5.5%、H24年度比9.4%の削減と年々削減が図られているものの、温室効果ガスの排出量では前年度比2.7%、H24年度比では12.9%の増加となりました。

このことが示すとおり、温室効果ガス排出量が増加した最も大きな要因は、排出量を算定する際に用いる電気の排出係数の値の上昇です。電気の排出係数は、平成23年の東日本大震災の発生以降、原子力発電所の稼働停止が継続し、代替する火力発電量の大幅な増加の影響で以後上昇を続けています。

平成26年度は、この排出係数が前年度に比べて約9%上昇し、H24年度に比べて約25%上昇したことから、実際の電気使用量が削減できてもその効果が表れにくい結果となりました。

③ 【施設別の温室効果ガス排出量推移】



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

③のグラフは、基準年である平成24年度から計画の対象年度である平成26年度までの施設別温室効果ガス排出量の推移を表したグラフです。

前述の理由から、「その他出先機関」、「自動車」を除いた各施設において、温室効果ガス排出量が増加しています。

「その他出先機関」で温室効果ガス排出量が減少した要因としては、中央公民館の電気使用量が平成24年度に比べて大きく減少したことが挙げられます。平成24年度には節電対策の一環として、中央公民館がおでかけスポットとして活用されたことから夏期のエアコン使用量が急激に増加し、例年に比べて電気使用量が大幅に増加した背景がありました。